

独立歩兵才五百四大隊略歴

年月日	概	要
昭一九三、一〇 二一九	<p>滿洲牡丹江省掖河駐屯の歩兵才七聯隊に於て才十野戦補充隊の臨時編成下令 する。 編成鬼結の編成担任官歩兵才七聯隊長陸軍大佐朝生平四部の單装検査を反く 大隊の主要幹部編成人員等左記の如し</p>	<p>大隊長 陸軍少佐 丸山 昌 以下 三五名 大隊本部副官 陸軍中尉 杉山 明保 以下 二三七名 才一中隊 同 林 豊 以下 二三七名 才二中隊 同 藤尾 恒九郎 以下 二三七名 才三中队 同 原田 四郎 以下 二三七名 才四中队 同 諸 隈 貞夫 以下 二三七名 隊内統中隊 同 岡本 行雄 以下 二三七名 歩兵中隊 高 崎 忠雄 以下 二三七名 大隊総員 一、四五八名</p>
二二七	<p>兵員の大分の滿洲駐屯の才九師團より転属を受け一部在滿在郷兵及内地整備 要員よりなる 掖河県出發</p>	

(141)

0154

年月日	概要
昭一九・二・二九	山海関通過中国派盛軍司令部官の隷下に入る
三・一四	漢口着 オ三十四軍司令官の隷下に入る
三・一六	湖北省安陸縣徳安着 同地に於て別駐部隊たるオ五十八師団独立歩兵オ二十九大隊と警備交代の爲の準備を進むるの傍ら教育訓練に専念す
四・九	オ四中隊を徳安警備の爲に派遣し主力は移駐のため徳安出發
四・一〇	湖北省京山県京河镇着 警備引継の爲左の如く兵力を配置す
	光武嶺 オ一中隊
	京河镇 大隊本部、オ二中隊、械陶銃中隊、歩兵砲中隊
	羅店 オ三中隊
	徳安 オ四中隊
四・一四	警備交代完了す
五・一	商榷オ一線の至敵なる警戒に任ずる外教育訓練に専心努力す 又部隊の軍紀風紀を緊張し併せて村民衆軍紀の確立を期す
六・三	オ五十八師団要員として兵三一九名転出す
六・一六	オ五十八師団補充要員として補充兵五〇の名到着し之が教育担当を命ぜらる オ五十八師団補充要員として五月三十日到着 教育中の陸軍二等兵山田利秋 (大正二年十月十日生)は十三時三十分逃亡す(本人は昭和十九年四月四日

六内

中支(二の四)

(142)

0155

七、三一	<p>國民兵として歩兵才十三騎隊補充隊に志願入隊後直ちに中国派遣の目的を以て出發五月二十六日湖北省京山泉宗河鎮に到着。初年兵として教育中進せざるものなり。部隊は直ちに全力を傾注して前後十日間に亘り搜索に努力せるに遂に発見に到らず。</p> <p>才五十八師團補充要員四九九名は教育終了し本碼頭迄及のため陸軍少尉尾上孝二の指揮により出發す。</p>																
一一、一四	<p>転入兵中山旅以下五三名到着す。</p>																
一一、一六	<p>才五十八師團補充要員陸軍中尉永坂一夫以下四一六名米宗之が教育担当を命せらる。</p>																
一一、三四	<p>右進及陸軍一等兵女改倣以下三一一名到着（四四七名）</p>																
二〇、二二、二六	<p>裏坂作戦に才三十四單直轄として高橋大尉の指揮する歩兵ニヶ中隊（混成にして総員二六七名）参加し兵站線確保の任に服す。</p>																
三、三〇	<p>單令陸甲才十八号により才十野戦補充隊歩兵才一大隊を基幹とし独立歩兵才五百四大隊の編成を命せられ之が編成を完結す。</p> <p>大隊の主要幹部並に補充人員等左の如し</p>																
	<table border="0"> <tr> <td>大隊長</td> <td>陸軍少佐</td> <td>丸山</td> <td>昌</td> </tr> <tr> <td>大隊本部副官</td> <td>陸軍中尉</td> <td>中里</td> <td>三男 以下 六五名</td> </tr> <tr> <td>才一中隊</td> <td>同</td> <td>諸隈</td> <td>貞夫 以下 二〇名</td> </tr> <tr> <td>才二中隊</td> <td>同</td> <td>花里</td> <td>麻井 以下 二〇五名</td> </tr> </table>	大隊長	陸軍少佐	丸山	昌	大隊本部副官	陸軍中尉	中里	三男 以下 六五名	才一中隊	同	諸隈	貞夫 以下 二〇名	才二中隊	同	花里	麻井 以下 二〇五名
大隊長	陸軍少佐	丸山	昌														
大隊本部副官	陸軍中尉	中里	三男 以下 六五名														
才一中隊	同	諸隈	貞夫 以下 二〇名														
才二中隊	同	花里	麻井 以下 二〇五名														

年月日	概要
昭三〇、三、二〇	<p>才三中隊 陸軍中尉 原田四郎 以下二〇四名 才四中隊 同 杉山明保 以下二〇四名 楳園鏡中隊 同 林 豊 以下一三五名 赤兵砲中隊 同 松村外二 以下一〇五名 通信隊 同 佐藤反之介 以下 六九名 大隊総員 一、一九〇名</p> <p>三、二〇</p> <p>精成完結のため移動 陸軍中尉佐藤友之介 同中尉山尾善繁 同少尉小川信男 同軍医少尉林正勝 独立歩兵才五百四大隊附に転入す 精成完結のため移動 陸軍少尉新田正雄（陸軍軍医中尉高橋浩、陸軍主計中尉増沢清憲）以下六二 名独立兵隊才八十五旅團司令部に転出す 精成完結のため移動 陸軍中尉塚尾五之助 以下一五一名独立歩兵才五百五大隊へ転出す 精成完結のため移動 陸軍中尉古田肩彦 以下一四名独立歩兵才五百七大隊に転出す 精成完結のため移動 陸軍大尉高橋忠雄 以下一六名独立歩兵才五百八大隊へ転出す</p>

(144)

0157

九、八	九、二	八、二〇	八、一四	七、二三	六、九	六、七	六、六	五、三〇	五、三	四、三〇	
カニ中隊陸軍兵長久保行一（現役兵）湖北省沱江に於て衛兵勤務服務中九時三十五分逃亡す	停戦協定締結さる	復員下令	停戦の詔書頒布さる	大隊長代理ナリシ陸軍大尉岩根道義大隊長に補せられる	本土兵備要員たる前大隊長陸軍少佐丸山昌出發離米す	陸軍大尉岩根道義大隊長代理として首任す	本土兵備要員として首任す	命せられ陸軍中尉越後義雄以下五〇名出發す	陸軍少佐丸山昌以下將校一名、下士官四〇名、本土兵備要員として転属を命ぜられ陸軍中尉越後義雄以下五〇名出發す	陸軍兵長中野徳太郎以下七名転入す	襄城作戦参加部隊帰還す
										陸軍中尉山尾善繁以下八五名保定舊備隊カ五飛行場中隊カ大独立舊備隊野戦	陸軍中尉藤海豊助以下三一名カ三十四軍自動車隊へ転出す
										編成完結のための移動	陸軍大尉藤尾恒九郎カ百三十三師団へ転出す
										陸軍中尉曹松木正光以下四〇名（その他二名）転入す	編成完結のための移動

年月日	概 要
昭三〇、一〇、一	沱城集結を命ぜられ京河鎮其の他の驻地出發
一〇、九	沱城集結南側湾上鎮到着、中国才大戦区才四官兵管理所の管轄に入る 此の向現駐地京河鎮及湾上鎮に於て中国才七十五軍との間に軍需諸品の引継 を了す
二一、二、一五	官兵管理所の指示に基き兵力一ヶ中隊を以て沱城青盧鎮区の道路作業を実施 す
四、一、二	右作業を完成す
四、三、二	官兵管理所及才大戦区司令官の派遣せる検査組の携行諸物件の検査を受検す
四、三、五	帰郷の為湖北省沱城を出發す
四、三、七	湖北省沱城に到着す
四、三、九	汽車行に拠り湖北省沱城を出發
五、一、一	河南省鄭州に到着す
五、三、三	同鄭州駅を出發す
五、七、七	江南省上海に到着し才十六兵站宿舎に入る
五、一、一	才一回検疫を受検す
五、一、三	才二回検疫を受検す
五、二、五	上海旧特別市政府に於て携行諸物件の検査を受検す 飯田橋橋に於てリヴァアテイー型（VO一三九号）に乘船出帆す

夕内

中支（その四）

<146>

0159

傳多港帛着
残務整理要員として陸軍大尉岩根道義及陸軍軍曹清水徳次は中洞派遣軍復員
本部に到る

(149)

0160

年月日	昭二〇、三、一〇	
概要	<p> 単令陸甲カ十八号に依り独立混成カ八十五旅團独立歩兵カ五百五大隊編成下 令 カ十野敵補充隊カ一大隊、カ三大隊、カ四大隊及独立歩兵カ百十六大隊を以 て編成着手 編成完結 命 課 </p>	
要	<p> 陸軍少佐 佐々木郁哉 中尉 木上長 大隊長 長町雄 一中隊長 坂本造 二 森田富藏 三 森山新悦 四 石岡保吉 歩兵中隊長 神俣義之助 通信隊長 山本清次 </p>	<p> 独立混成カ八十五旅團独立歩兵カ五百五大隊略歴 陸軍少佐 佐々木郁哉 </p>

(148)

0161

四、二	湖北省天门县天门卡里モ 同地附近警備
四、一六	大隊長独立混成カ十七旅團通信隊より着任す
カ三	中隊到着
八、一四	独立混成カ八十五旅團司令部直轄中隊として湖北省沔陽県沔陽附近の警備
八、一五	停戦詔書発布
九、二	軍令陸甲カ百十八号に依り復員下令
九、三	部隊集中の日の天门出発
九、三五	湖北省沔陽県長江埠到着
一〇、一一	カ六戦区カ四日本官兵管理所に入所
一一、四、三〇	内地帰還のため孝感出発
五、一六	カ九兵站勤務要員として大隊主力上海に残留
五、二六	一部帰還のため長甯大尉以下一五名上海港出発
七、四	一部帰還のため青木中尉以下一〇二名上海港出発
七、六	大隊長中国側の要求に依り上海に残留 佐々
七、二五	佐々木大尉以下九五名帰還のため上海港出発 浦賀港上陸 復員完結

(内地帰還時主力と分離し復員した一部、部隊の略歴は省略す)

独立混成隊八十五旅団独立歩兵隊五〇六大隊隊歴

陸軍少佐 山崎大三郎

年月日	概
昭三〇、三、一九	昭和二十年軍令陸甲才十八号に依り独立歩兵隊五〇六大隊編成下令
三、三〇	独立歩兵隊五〇六大隊編成完結
	湖北省鍾祥県安陸附近の營備
	(才一中隊は兵團直轄として潛江県潛江附近の營備)
八一四	停戦詔書發布
八、三五	復員下令
九、一八	安徽省に依り集結の下の安陸出發
九、二三	安徽省黃灘團に到着
一〇、一七	才大隊区才四日本官兵管理所に入所
一一、四、二六	内地帰還のため黃灘團出發
四、二八	孝感着
五、一	孝感出發
五、六	徐州着
五、三	鄭州着
五、五	鄭州出發

(157)

0163

五、七	浦口着
五、八	揚子江渡河南京着
五、一〇	上海着 呉淞水大兵站に宿營
五、二二	上海出帆
五、二九	佐世保上陸
五、三一	山崎少佐以下三名残務整理の爲二日市に到着
六、七	残務整理終了

(157)

0164

独立混成隊八十五旅團独立歩兵隊五百七大隊路歴

陸軍大尉 真鍋貞次郎

年月日	概	要
昭二〇、三、二〇	軍令陸甲オ十八号に依り旧オ十野戦補充隊オ四大隊を基幹とし中華民國湖北省鍾祥県黄家集に於て独立歩兵隊五百七大隊を編成す	
自 三、二〇	湖北省鍾祥県黄家集附近の警備	
至 八、一五	終戦命令受領	
自 八、一五	湖北省志願隊湯池に集結準備	
至 昭二一、四、二四	湖北省志願隊湯池に集結帰郷待機	
自 一〇、一	内地帰郷のための湯池出発	
至 昭二一、四、二五	湖北省志願隊孝感車站より列車輸送により鄭州、徐州、南京經由上海に集結	
自 五、二二	諸準備完了せるを以て乗船	
至 五、二二	十五時三十分上海出帆	
自 五、二四	吳淞沖に一泊	
至 五、二四	吳淞出帆内地に向う	
自 五、二七	八時 仙崎港に入港	

外

中文(左の四)

	<p>五三〇 検取受検、書類及諸帳準備をなす 六時上陸開始 十四時復員式を挙行し解散す</p>
--	--

(53)

0166

独立歩兵第508大隊略歴

年月日	概 要
昭一九、三、九 三、一八	<p>歩兵第7聯隊に於て補成完結 編成部隊左の如し</p> <p>第10野戦補充隊本部</p> <p>同 第1大隊</p> <p>同 第2大隊</p> <p>同 第3大隊</p> <p>同 第4大隊</p> <p>同 第4大隊</p> <p>同 第5大隊</p> <p>同 第6大隊</p> <p>同 第7大隊</p> <p>同 砲兵隊</p> <p>同 工兵隊</p> <p>同 通信隊</p> <p>第6大隊長代理 陸軍中尉 岡部源一</p>

三、二五	中国派遣のため滿州国牡丹江出發
四、一五	湖北省天內県皂市に到着、同地附近の警備に任ず
二〇、三、二〇	軍令陸甲才十八号に依り独立歩兵才五〇八大隊編成下令 編成完結
	独立歩兵才五〇八大隊長 陸軍大尉 高橋忠雄
	精成部隊左の如し
	独立歩兵才五百八大隊本部
	同 才一中隊
	同 才二中隊
	同 才三中隊
	同 才四中隊
	同 機関銃中隊
	同 歩兵砲中隊
	同 通信隊
八、一四	同日より湖北省安陸県安陸附近の警備
八、二五	停戦詔書發布
	俊員下令
九、二	停戦協定締結
一〇、二一	才六戦区才四官兵官理所に収容

外 仲支 (三ノ四)

年月日	概 要
昭三、四、二七	内地帰還のたの湖北省志政界長江埠出発
五、一〇	江蘇省上海着
五、二二	江蘇省上海港出帆
五、二九	佐世保上陸
	帰還人員左の如し
	将校 一八名
	准士官 七名
	下士官 一四九名
	兵 七二七名
	軍属 一名
	計 九〇二名
	入院患者 七九名
	生死不明 三〇名

(57)

0169

独立混成才八十五旅團砲兵隊略歴

陸軍少佐 久保今朝夫

年月日	概	要
昭一九、三、九	才十野戦補充隊砲兵隊編成下令せらる	
	編成左の如し	
	才十野戦補充隊砲兵隊本部	
	才十野戦補充隊砲兵中隊	
	山砲兵才九聯隊に於て編成完結す	
三、一八	補才十野戦補充隊砲兵隊長 陸軍大尉 久保今朝夫	
三、三七	中国派遣の烏滿州牡丹江出發	
三、一八	湖北省沔陽縣に到着 同地附近の警備	
六、三〇	湖北省天门県皂市に移駐 同地附近の警備	
三、一五	湖北省沔陽縣に改駐 同地附近の警備	
三、三〇	昭和二十年軍令陸甲才十八号に依り独立混成才八十五旅團砲兵隊編成下令同日完結	
	補独立混成才八十五旅團砲兵隊長 陸軍少佐 久保今朝夫	
	編成及駐地左の如し	
	独立混成才八十五旅團砲兵隊本部	湖北省沔陽縣

年 目 日	概	要
昭二〇、三、二〇	独立混成隊八十五旅団砲兵隊が一中隊	湖北省沔陽縣に於
六、九	陸軍中尉尺田慎以下二十一名本土兵備要員として内地部隊に帰還す。	”
八、一四	停戦詔書発布	”
八、二五	復員下令	”
九、二	停戦協定締結	”
一〇、二	が六戦区が四日本官兵管理所に収容	”
二二、四、二六	内地帰還のため湖北省沔陽縣に於て出発	”
五、一〇	上海に集中す	”
五、二〇	上海港出帆	”
五、二六	鹿児島港上陸	”
	復員忠結	”

中支(支那)

0171

独立混成隊八十五旅團通信隊略歴

年月日	概要
昭一九、三、九 二、一五	陸軍機務隊四〇号により才十野戦補充隊編成下令 歩兵才七聯隊補充隊担任滿州牡丹江市才九師團架橋材料中隊に於て坂才十野戦補充隊通信隊補充隊編成完了
三、二三 三、二六	旅團通信隊長 陸軍中尉 永富晴人 編成人員 一〇九名
四、一一	中甸派遣のたの牡丹江出發 鮮滿国境山海關通過
四、一一	中華民國湖北省政府成立
至二〇、三、一九	中華民國湖北省政府成立にありて同地附近の警備並漢口——沱沱、沱沱—— 隸下各部隊の通信連絡に任ず
一九、四、一五	中華民國湖北省政府成立に於て才十野戦補充隊旅團通信隊補充隊編成完了
二〇、三、二〇	旅團通信隊長 陸軍中尉 永富晴人 編成人員 一〇九名 軍令陸甲才十八号により中甸湖北省政府成立に於て独立混成隊八十五旅團通信隊補充隊下令

年月日	概	要
昭二〇、三、二〇	篇成完結	
旅田通信隊長 陸軍中尉 永富靖人	編成人員 一九一名	
中国湖北省沱陽旅隊にありて同屯附近の警備並漢口―沱陽―沱陽―線	下部隊向の通信連絡に任ず	
旅田通信隊長入隊	隊長代理 陸軍中尉 福原亮敬	
停戦詔書発布	復員下令	
停戦協定締結	才十野戦補充隊旅田通信隊、独立混成才八十五旅田通信隊、中国湖北省沱陽	
果沱陽にありて大東軍戦後勤務に従事	内地帰還のため中国湖北省沱陽旅隊出隊	
上海港出帆	佐世保港上陸	
陸軍中尉武田満以下一八六名 餘隊、召集解除	復員完結	
大、四		

独立歩兵才五旅團司令部略歴

陸軍少将 野地嘉平

年月日	概要
昭一八、一、一五 一、三一	昭和一八年軍令陸甲才百拾五号下令に依り独立歩兵才五旅團司令部編成着手の指揮下に入る
二、三〇 四、一〇	旅团长陸軍少将野地嘉平以下将校十九名、下士官五十六名、兵九十四名 中華民國湖北省當陽県古佛寺移駐
自 五、一八 至 六、五	相桂作戦参加
自 九、一五 至 九、三二	趙益芝陸軍少将参加 死没者なし
自 一、一五 至 一、一八	沙道堤附近の戦斗参加 死没者なし
二〇、四、二八	軍令陸甲才十八号編成改正下令 一 陸軍少将野地嘉平以下将校四名、下士官三名転出 二 才三十九師團の指揮下を離る

(161)

0174

年月日	概要
昭三〇、三、一九	本土兵備要員陸軍大尉江草組以下將校二名、下士官四名転出
八、一四	待徴詔書発布
八、三九	衛生勤務部陸軍軍医中尉久保島正秋以下將校一名、下士官四名、兵二〇名 転入
九、一	中華民国湖北省江陵県荊州集結
九、二四	中華民国湖北省沔陽県仙桃鎮集結
三、二〇	陸軍少尉筒井精以下將校二名、下士官九名、兵二十五名転入
五、一六	中華民国夏口県漢口集結
五、一〇	返還浮屠一一八名転入
五、二七	内地帰還のため上海集結
六、一四	上海乗船
六、二一	碑多上座 復員式挙行

ソ月 中支(シノカ)

(162)

0175

独立歩兵才五旅團独立歩兵才二百七大隊略歴

陸軍大尉 島田満雄

年月日	概要
昭一九一 一、三	昭和十九年一月軍令陸甲才二五号に依り独立歩兵才二百七大隊編成下令 中華民國湖北省宜昌都県紫金嶺に於て編成業務開始
一、三十一	同地に於て編成完結
三、一〇	大隊長 陸軍中佐 菅道敏以下一四二七名
一九、四	中華民國湖北省宜昌都県紫金嶺に移駐、同地附近の警備並に訓練に従事
二〇、二	大隊長陸軍大佐(進級)菅道敏朝鮮蕙山新設歩兵聯隊長として転出
自 二、一四	大隊長 陸軍大尉 原 齋
至 四、一九	襄垣作戦に参加
四、二九	軍令陸甲才一八号に依り編成改正 大隊長陸軍大尉原齋以下九四四名新設独立歩兵才六百二大隊要員として転出 独立歩兵才二百九大隊長陸軍少佐植田新兵衛以下旅團内各大隊より総計六九九名転入 中華民國湖北省江陵県沙市に於て新二百七大隊編成完結

年月日	概要
昭二〇、四、二九	大隊長陸軍少佐植田新兵衛以下一、三九五名、將校三〇名、准士官四名、下士官一八五名、兵一、一七六名
四、二八	稀政完結の前日、大隊主力（六一中隊沙市附近、隊警備）は沙市出發、長沙附近に出發
五、二六	湖南省湘陰縣三姐橋（長沙北方約三〇許）に到着同地附近の警備
六、二三	本土兵備要員として陸軍大尉福山英作以下二十四名沙市出發、転出
八、二四	大隊主力は長沙附近の警備任務を終了し沙市帰還、同日より同地附近の警備
八、二五	停戦詔書發布
九、三	復員下令
九、一三	停戦協定締結
九、二二	中華民國湖北省江陵縣沙市出發
一〇、二六	中華民國証陽縣仙桃鎮に到着集結す 大隊長陸軍少佐植田新兵衛アムーバー性赤痢肝臓膿瘍により仙桃鎮に於て戦病死
一〇、二七	大隊長 陸軍大尉 島田満雄
一一、五、一四	内地帰還の爲中華民國湖北省証陽縣仙桃鎮出發
五、一八	漢口出發
五、三一	漢口出發

(166)

0177

五二七	上海着
五三一	大隊後陸軍大尉島田満雄、中圀側より残道を命ぜらる
六一四	内地掃蕩のため上海港出帆
六三三	在在塚

(145)

0178

独立歩兵才五旅團独立歩兵才二百八大隊略歴

年月日	概要
昭一九、一、二五 一、三一	<p>軍令陸甲才百十五号独立歩兵才二百八大隊補成下令 補成榮務著手</p> <p>中華民國湖北省黃陂県揚子補成完結</p> <p>大隊長陸軍少佐嶺原五十人以下將校三八名、下士官一五四名、兵一三三五名</p> <p>中華民國湖北省當陽県鶴嶺移駐</p> <p>浣市附近の掃蕩戦参加</p> <p>死歿人員 兵五名</p> <p>揚秀橋附近の戦斗参加</p> <p>死歿人員 三名</p> <p>湘桂作戦参加</p> <p>歩兵才七十七聯隊補充隊より兵八名補充</p> <p>李家場附近の掃蕩戦参加</p> <p>死歿人員 兵二名</p> <p>馬山附近の掃蕩戦参加</p>

中夫()

自 一、二、三	至 一八	二〇、二〇	五、一〇	四、一八	六、二六	八、一三	八、一三	九、一三	二、五、一三	六、一五	六、一一
<p>死没人員 將校一兵 兵一名 歩兵才三十四聯隊補充隊より將校二名補充 長湖間口の掃蕩戦参加 独立歩兵才二百七大隊より下士官一三名補充 歩兵才三十四聯隊補充隊より兵三九一名を補充 川心店附近掃蕩戦参加 死没人員 下士官一名 兵一名 歩兵才二百三十一、同才二百三十二、同才二百三十三聯隊より下士官三名補充 才三四軍野戦兵器支隊より技術下士官一名補充 才五野戦補充隊より將校二名補充 大隊長 陸軍大尉 奈須正行 中華民國湖北省江陵県荊州移駐 独立歩兵才二百九大隊より將校四名補充 中華民國湖北省陽泉仙桃鎮移駐 中華民國湖北省夏口漢口移駐 中華民國江蘇省上海出帆 博多港上陸 復員</p>											

(161)

0180

独立歩兵才五旅団独立歩兵才二百九大隊略歴

年月日	要
昭一九、一、二五	昭和十八年軍令陸甲才一一五号に依り独立歩兵才五旅団編成下令 滿成業務着手
一、三一	中華民國湖北省夏口景揚子に於て編成完結
	大隊長 陸軍少佐 植田新兵衛 以下一四三九名
	將校 三八名
	准士官 四名
	下士官 一三九名
	兵 一二五四名
三、二二	中華民國湖北省常陽景三里港に移駐
四、九	中華民國湖北省江陵景瀾沱市に移駐、同地附近の警備
自 四、二九	中華民國湖北省江陵景瀾沱市地区に於て反共戦斗
至 五、二	本戦斗に於て戦死者左記の如し
	左記
	將校 一名 陸軍中尉 須藤記明
	准士官 一名 陸軍准尉 中本富保

年月日	概要
自昭一九五、二一 至 六、八 八、六 二〇、一、一	<p>兵 一八名</p> <p>湘桂作戦に於ける湖北省公安県班竹場附近の戦斗に参加 戦死者 兵 一名</p> <p>陸軍二等兵草田徳松以下十一名、歩兵カ七十七聯隊より補充 陸軍中尉 松本政雄</p> <p>陸軍少尉 岩田英善</p> <p>陸軍見習士官 篠原 真</p> <p>計 三名</p> <p>歩兵カ三十四聯隊補充隊より補充</p> <p>湖北省宜政県附近の襄攀作戦に参加 参加の中隊</p> <p>本部主力、カ五中隊、歩兵砲隊、通信隊</p> <p>本戦斗に於ける戦死者</p> <p>兵 六名</p> <p>陸軍上等兵 沖野利夫 以下一〇二名</p> <p>カ三十四軍野戦自動車隊に転属</p> <p>大隊長陸軍少佐植田新兵衛以下三二九名（将校一四名、下士官五二名、兵</p>
四、二九	

13月

中支（その四）

(170)

0183

二六三名	陸軍中尉鍾集孝男以下二。大名、軍令陸甲才百十五号に換り歩兵才二百七十六隊に転属
陸軍中尉鍾集孝男以下二。大名、軍令陸甲才百十五号に換り歩兵才百三十二	師團に転属
陸軍大尉福粉英三	独立歩兵才五旅團司令部より大隊長として着任
陸軍中尉金井久直以下一三二名	軍令陸甲才百十一号に換り独立歩兵才五旅團司令部、独立歩兵才二百七、二百八、二百十大隊、旅團通信隊より転入
昭和一九年度徵集幼年兵	陸軍二等兵有藤俊次以下四八四名（内半島壯丁六十五名）到着
陸軍大尉	平田正次以下二十九名
將	叔 二名
下士官	二四名
兵	三名
本土兵備要員として転出	
役員下令	
八、三五	反転のための警備地湖北省江陵蕪湖市出発
八、三〇	中華民國湖北省沔陽景仙桃鎮に反転集結
九、二四	右場所に於て武装解除せられ才大戦区戦俘日本管兵管理所に收容せらる。
一〇、五	内地帰還のための中華民國湖北省沔陽景仙桃鎮出発
一一、五一	

(171)

0184

		年月日	昭三、六一五 六、三一
		概要	上海港出帆 博多上陸 復員員 復員人員
計	兵	下士官	准士官
九一三名	七六七名	一一五名	五名
			將校 二六名

ヨト
ア
ク
シ
シ
シ
シ

(17)

0185

独立歩兵才五旅団独立歩兵才二百十 大隊略歴

陸軍少佐 決 賜 義 彦

年月日	概要
昭一九一、一、二	昭和十八年度軍令陸甲才百十五号に依り独立歩兵才二百十大隊臨時編成下令
一、三一	編成業務着手 独立歩兵才二百十大隊本部（才四十師團勸導隊 岳州） 独立歩合才二百十大隊才一中隊（歩兵才二百三十四聯隊 石首） 独立歩兵才二百十大隊才二、三中隊（歩兵才二百三十五聯隊 桃林） 独立歩兵才二百十大隊才四、五歩兵砲中隊（歩兵才三百三十六聯隊 長安） 独立歩兵才二百十大隊通信隊（才四十師團通信隊 岳州） に於て編成を完結
二、七	編成定員 將校三八、准士官一五五、兵一、三三四 計一、四二七名 編成人員 將校三八、准士官一四八、兵一、三四〇 計一、四二六名 旅団集結のため岳州出發 鉄道輸送により一四〇の武員著 引籠り同地に於て揚子江を渡河し一七〇の漢口に集結を完了す

年月日	概	要
自昭一九、二、八 至 二、一〇	漢口に於て舟楫	
二、二一	〇六〇〇漢口出發、鉄道輸送に依り一六〇〇長江埠著 同地に於て宿營	
二、二二	〇七〇〇長江埠出發、行軍に依り一四〇〇沱城著、同地に於て宿營	
二、二三	〇六三〇沱城出發、一六〇〇阜市西方一併無名部落著、同地に於て宿營	
二、二四	〇五〇〇宿營地出發、一七〇〇巨屈集著、同地に於て宿營	
二、二五	〇五三〇巨屈集出發、一六三〇揚家鋪著、同地に於て宿營	
二、二六	〇五三〇揚家鋪出發、一六〇〇羅漢寺著、同地に於て襄河を渡河、一七三〇沙洋鎮著、同地に於て宿營	
二、二七	沙洋鎮に於て大休止、爾後の行動を準備す	
二、二八	〇四三〇沙洋鎮出發、一六〇〇后港著、同地に於て宿營	
二、二九	〇五〇〇后港出發、一六三〇十里鋪著、同地に於て宿營	
二、三〇	〇六〇〇十里鋪出發、一七〇〇胡家場著、同地に於て宿營	
二、三一	〇六三〇胡家場出發、一五〇〇湖北省荊門県小烟墩著、同地に集結を完了、教育訓練並補成後の諸業務を実施す	
四、五	警備地湖北省公安県南口地区に移駐のため一九〇〇小烟墩集出發	
四、六	〇八〇〇河溶鎮著同地に於て大休止を実施の後一八三〇同地出發	
四、七	〇四〇〇十里鋪著、同地に於て四時間大休止を実施したる後のハ三〇出發	

女子

中支(支那)

(174)

0187

四、八	二三〇〇左溪鋪着 同地に於て大休止を實施し爾後の行動を準備す 〇四〇〇左溪鋪出発 〇九三〇沙市着 主力は才一中隊を同地に残置し同地 に於て揚子江渡河、布河に集結、同地に於て宿營、才一中隊は一五〇〇沙市 出発 一七〇〇洋油站着 同地に於て宿營す
四、九	主力は〇七〇〇布河出発 一九〇〇料湖東着 同地に就宿 才一中隊は〇八〇〇洋油站出発 一八三〇馬家蔡着 同地に於て宿營 大隊本部 才五中隊 赤兵砲隊 通信隊は〇七〇〇料湖東出発 一四〇〇公 安嶺廟口着
四、一〇	才一中隊は〇六〇〇馬家咀出発 一七〇〇公安嶺蔡家灣着 才三中隊は〇七〇〇料湖東出発 一五〇〇公安嶺朱家灣着 才四中隊は〇七〇〇料湖東出発 一八〇〇公安嶺周家場着 前任部隊より警 備継承準備を實施す
四、一一	才一中隊は〇七三〇馬家蔡出発 一八三〇郝穴着 宿營 才一中隊は一部を郝穴に残置し中隊主力は〇六三〇郝穴出発 一九〇〇龍灣 着 前往部隊よりの警備継承準備を實施す
四、一二	前往部隊才十三師團步兵才六十五聯隊より警備の継承を完了し江南東地区警 備隊となり爾後同地区の警備に任す
至 白 六、四 五、七	羽桂津戦に参加

年月日	概要
昭一九、五、二七	<p>大隊は旅順命令に基き湖南地区一帯に拠る敵を索制し以て湘桂作戦を有利ならしむるため陽動を実施する目的を以て主力は二〇三〇の南口を出発 同地を南方約一汗東港子附近に於て渡河準備を完了し二二〇〇の太平運河の渡河を開始 〇四三〇渡河を完了す</p>
五、二八	<p>渡河を完了せる大隊は態勢を整え直子崗に向い前進 同地に於て黒狗嘴附近より渡河し同地に進出し米丸るカニ中隊及びサニ中隊を掌握す</p>
五、二九	<p>大隊は公安県城攻囲の為虎渡河を実施する目的を以て〇九〇の渣子崗出發 伍家鋪に向い前進 一ニ三〇同地に到着 同地附近に於て民舟の蒐集を実施す</p>
五、三〇	<p>渡河準備を完了せる大隊は〇六〇の陳家控附近に於て渡河を決定せんとするも同地対岸にある敵よりの猛射を受け加うるに民舟不十分のため一時渡河を中止し伍家鋪に反転 同地に於て再及民舟の蒐集をなし渡河準備を実施す</p>
自 五、三一	<p>渡河準備を完了せる大隊は〇四三〇渡河点（陳家控）に到り固らざる準備の下〇五〇〇渡河を開始せるも河岸の状況不良なると民舟の運行意の如くならず 渡河予定の如く進捗せず之に長時間を要す</p> <p>一一〇〇の渡河を完了し大隊は一五〇〇の公安県城に突入す</p> <p>大隊は公安県城南方約三汗附近無名部隊に進出し爾後の行動を待機す</p>

中支（二〇の四）

至 六、二	大隊へ進出地点に於て陣地を確保し爾後の行動を準備す
六、三	抜陣よりの反腹命令を改領レ一七〇〇無名部落出発 公安東團に於て渡河
六、四	を渡河、黒狗嶺対岸に集結す 〇四〇〇黒狗嶺対岸に於て渡河 一六〇〇原駐地に帰還す
自 六、五	公安東團口附近に於ける警備
至 一六、五	松滋河以東敵正鬼甲及敵匪隊激戦に参加
自 一三、六	大隊は右件敵参加のため〇九〇〇南口出発 一三三〇蔡家湾に於て太平運河
至 一三、九	の渡河を実施レ一五〇〇の渡河を完了 直ちに南子口対岸に匂い前進
一三、六	同地に於て米積河の渡河を準備す
南子口附近に在る敵は堅固なる陣地に拠り激烈なる正面射を以て大隊の渡河	
を阻害、班竹嶺への前進を阻止せんとして頑強なる抵抗を試み敵は退却の兆	
存きを以て大隊は二四〇〇強行渡河を実施するに決レ四ヶ所の渡河点を選定	
し主力は火器火力援護の下之を決行 〇二三〇南子口を占領す	
爾後潰走する敵を急追班竹嶺に到る堤防沿いに陣地を構築し抵抗せる敵を毘	
破レつつ一九〇〇班竹嶺に突入す	
一三、七	〇六〇〇米積台対岸に到着態勢を整え太平運河を渡河、一五〇〇の米積台に集
一三、八	結す

(177)

0190

年月日	概 要
昭一九、一三、九	同地に於て旅團よりの反転命令を受領シ、三〇〇米橋台出發 蔡家湾村岸に於て太平運河を渡河 一九三〇原駐地に帰營す
自 一三、一〇	公安県南口附近に於ける警備並に肅正
至二〇、八、一三	停戦詔書発布
八、一四	豫員下令
八、一六	大隊は転進準備のため中甸間に引越準備を實施す
八、三〇	部隊は転進のため各隊陣地を撤収南口集結
八、三〇	一五三〇南口出發 荊州集結を命ぜられ先づ沙市村岸渡河点に向う
八、三〇	二〇三〇沙市村岸(布河)渡河点に到着 直ちに渡河船舶隊の援助に依り揚
九、一	子江〇五三〇渡河完了 〇六三〇沙市出發 荊州に向い前進 一三三〇荊州西北方三軒(宗家湾)に到着 部隊は同地に集結 爾後の転進準備を實施す
九、二	宗家湾に在りて転進準備並に中甸側引越準備
九、一三	部隊は沔陽県仙桃鎮集結を命ぜられ〇四〇〇宗家湾出發
九、一四	歩兵砲中隊は岡崎宗家湾出發 沙洋鎮を経た仙桃鎮出發
九、一七	一八〇〇梅家湾(湘江西南方約六軒)到着 東雅河渡河準備

自	至	自	至
九一八	九二一	九二五	九三〇
梅家嶺に於て民船蒐集並に渡河準備作業実施		一〇、五	
		五、八	
		五、二	
		五、一四	
		五、一五	
		五、一六	
		五、一七	
		五、一九	
		五、二〇	
一六三〇湖北省沔陽縣小兩灣（仙桃鎮南方約五許）到着、大隊は同地附近に集結す		一七〇〇	
一〇〇〇兵器馬匹を中甸側に引継完了		一七〇〇	
小兩灣附近に集結 爾後の転進を準備す		一七〇〇	
陸軍少佐汝揚義彦漢口武漢行營より召喚により出張す		一七〇〇	
〇大〇〇部隊は安村大尉の指揮を以て小兩灣出発 仙桃鎮に於て旅團主力を掌握する後〇八三〇同地出発 漢口に同じ前進		一七〇〇	
一七〇〇		一七〇〇	
〇八〇〇		一七〇〇	
〇大〇〇		一七〇〇	
〇七〇〇		一七〇〇	
〇七三〇		一七〇〇	
到着 宿營		一七〇〇	
漢口に於て内地帰還準備		一七〇〇	
〇五〇〇		一七〇〇	
漢口に出発 〇九〇〇漢口江岸駅より乗車 鉄道輸送に依り信陽――		一七〇〇	

(177)

0192

年月日	概	要
昭二、五、二〇	鄭州に向い出発	
五、二二	一五〇〇鄭州着下車 大休止 同地に宿営	
五、二三	一一三〇鄭州出発 徐州——浦口に向う	
五、二四	一四三〇南京着 大休止 夾池	
五、二五	一七〇〇南京出発 鉄道輸送に依り上海に向う	
五、二六	一六〇〇上海到着 宿営	
五、二七	上海に於て乗船 内地帰還準備	
六、一四	一〇〇〇乗船開始 一一〇〇上海港出帆 帰還の途に就く	
六、一五	一五三〇仙崎港入港	
六、一八	仙崎港外に於て上陸待機	
六、一九	仙崎港上陸 一〇〇〇上陸完了	
六、二三		

中支(5790)

独立歩兵第七旅團司令部征才九四四八部隊略歴

陸軍少将 生田 東 雄

年月日	概 要
昭一八、一、二〇	軍令陸甲才百十五号才百十六歩兵團司令部復帰独立歩兵第七旅團司令部編成下令
一九一、七	編成業務着手
一、三〇	編成完結（於安徽省安慶）
	旅團長 陸軍少将 松野尾勝明 以下将校一七名 下士官三六名 兵一一六名 軍属四名 馬匹一六頭 編成人員は旅團長以下才百十六歩兵團司令部所属人員を以て基幹とし之に才十一軍司令部を始め在中文請部隊より充足す
一、三一	隷下部隊の状況 隷下各部隊は左の如く大々昭和十九年一月三十一日編成を完結す
	㊦ 独立歩兵才二百十五大隊
	才六十八師團の編成担任にシテ九江に於て編成完結
	㊧ 独立歩兵才二百十六大隊
	同 右
	㊨ 独立歩兵才二百十七大隊

年月日	概要
昭一九・一・三一	<p>才三十四師團の編成担任にレシ南昌に於て編成完結</p> <p>(一) 独立歩兵才二百十八大隊</p> <p>(二) 独立混成才十七旅團編成を担任レ湖南省感寧に於て編成完結す</p> <p>(三) 独立歩兵才七旅團通信隊</p> <p>才百十六歩兵團通信隊を基幹として才三十四師團通信隊より充足レ九江に於て編成完結す</p> <p>行動の概要</p> <p>旅團司令部は安慶より九江に移駐す</p> <p>南昌に移駐す</p> <p>南昌地区警備の任を才三十四師團より継承す</p> <p>旅團の警備担任地味は江西省南昌県、新建県、永修県及安義県にレシ配属概要左の如し</p> <p>(一) 旅團司令部及通信隊 南昌市</p> <p>(二) 独立歩兵才二百十五大隊</p> <p>南昌県の警備を担任シ大隊本部は当初南昌に在リ後蓮頭へ南昌南方約三十里に位置す</p> <p>(三) 独立歩兵才二百十六大隊</p> <p>新建県の警備を担任シ大隊本部は八房に位置す</p>

6内
ア文(三)カ四)

(22)

0195

一〇、一六	一九、九、二五	自 三、二九 至 九、一〇	自 四、一八 至 二〇、三三	<p>③ 独立歩兵才二百十七大隊 安義県の警備を担任し大隊本部は安義に位置す</p> <p>④ 独立歩兵才三百十八大隊 当初主力を以て永修県の警備に任し大隊本部は東留に位置せり昭和 二十年一部へ歩兵二中隊を以て永修地区警備隊とし主力は南昌市に 移駐し旅團直轄隊となる</p> <p>概要以上の態勢を以て終戦時に到る</p> <p>此の間旅團主力としは作戦を実施せることなきも左の如く一部をしは湘桂 作戦に参加せしむ</p> <p>混成川崎大隊へ出動糧才一六二師団に転出し独立歩兵才二百十八大隊を基幹 とし同大隊長川崎少佐を長とする混成一大隊</p> <p>混成岩本大隊</p> <p>独立歩兵才二百十七大隊附岩本大尉を長とする混成一大隊</p> <p>右の外各地区隊は警備地区内治安掃蕩の爲小討伐を実施す</p> <p>旅團長 交替</p> <p>旅團長 松野尾勝明少将は東部軍司令部附に補せられ</p> <p>横浜警備司令官 陸軍少将 生田寅雄旅團長に補せられ同年十月十六日着任 す</p>
-------	---------	------------------	-------------------	--

年月日	概要
九、一	<p>停戦前後の状況 下丁シ号作戦を命ぜられカ三、カ十三、カ三十四、カ四十各師団の収容に任ずる側、西山嶺附近に洞窟陣地を著々構築中停戦を命ぜらる カ十一軍司令部附陸軍中佐 大貫五郎 参謀勤務を命ぜられ九月一日着任す 主なる人員の転出入</p>
二〇、一、 二〇、三	<p>現役初年兵の補充あり 此の際朝鮮出身初年兵七名輸送途中で死亡不明 軍令直甲カ一八号に依りカ百三十三師団独立歩兵カ六百一大隊補成要員として川崎少佐以下約千二百名を転出せしむ 之が為旅団司令部の転出八名 局地停戦協定及移交</p>
九、七	<p>中国カ五十八軍の新編カ十師は九月七日夕米南陽市内に進駐を開始し受降主管するカ九旅団司令長官蔣岳代理 カ九旅団司令長官部前進指揮所主任カ五十八軍軍長魯道源中將は九月九日南陽に到着す</p>
九、一〇	<p>南陽地区最高指揮官カ十一軍司令官笠原幸雄中將は旅団長生田少將を局地停戦協定委員長として九月十日より交渉を開始し</p>
九、一四	<p>昭和二十年九月十四日茲に南陽地区停戦協定正式調印を了す</p>

6外
中支(三ツウ)

(184)

0197

自 九一五 至 九二五	一〇、六	九二四	九二二
<p>九月十五日より武蔵軍需品等の移交を開始し、憲兵隊及高等司令部護衛隊を除き九月二十五日之を完了す。</p>	<p>憲兵隊及高等司令部護衛隊は十月六日武器を譲渡し、茲に移交を全く完了す。</p> <p>カ一次集中</p>	<p>中国軍南昌進駐開始と共にカ九款区司令長官の要求に依り各警備地区を撤し左の如く集中す。</p>	<p>旅団司令部及直轄部隊（旅団通信隊独立自動車カ六十九大隊カ一中隊自動車カ三十一野隊の一小隊 九江憲兵隊南昌分隊） 牛行（南昌対岸）附近</p> <p>独立歩兵カ二百十六大隊 高橋附近</p> <p>独立歩兵カ二百十五大隊 柴池附近</p> <p>独立歩兵カ二百十八大隊 江波橋附近</p> <p>独立歩兵カ二百十七大隊 甘倉利附近</p> <p>又別に南昌居民及旅団女子軍属は單の指令に拠り九月十四日以降九江に護送集結せしむ。</p> <p>カ二次集中</p> <p>九月二十三日旅団は江西省新建県吳吹附近に集中すべき受降準備の指令を受領せるを以て</p>

(185)

0198

年月日	概 要
昭二〇、九、二四	<p>翌九月二十四日司令長官部職員を含む偵察隊を派遣しその偵察の結果に基き左の如く受降主管の認可を得直ちに移駐を開始し</p> <p>集結を完了し帰還時に到る</p> <p>一〇、二九</p> <p>受取 旅団司令部 独立歩兵才二百十八大隊旅団直轄隊</p> <p>吉山吳 独立歩兵才三百十五大隊</p> <p>大塘衛 独立歩兵才二百十六大隊 独立歩兵才二百十七大隊</p> <p>朝鮮出身兵(軍属を含む)の集結及中国側への移管朝鮮出身兵を各兵団毎に集結管理すへき指令の下に之を受取に集結し迄本隊となし旅団司令部に転属管理し 昭和二十一年四月十五日九江に於て之を中国側に移管す</p> <p>帰還輸送 其一 九江集結</p> <p>帰還の為九江に集結すべし軍命令に接し</p> <p>人員は陸路五月十九日より行動を開始し</p> <p>荷物は船舶に依り五月二十日吳政を出発し</p> <p>九江に集結を完了す</p>
二一、四、一五	
五、一四	
五、一〇	
五、一九	
五、一四	

<p>六一七 六一四</p>	<p>歸還輸送 其二 上海集結</p> <p>独立歩兵カ=百十六大隊及独立歩兵カ=百十七大隊</p> <p>爾余の旅団主力</p> <p>の二回に亘り九江出發、九江——南京間は船舶輸送、南京——上海間は鉄道輸送に依り</p> <p>上海に集結を完了</p> <p>歸還輸送 其三 上海——内地</p> <p>上海到着後中国側の指令に基き旅団長（附隨者高級副官及伝令ニ）、各大隊長（附隨者各伝令一）及連兵隊（宮野大尉以下三十六名）計四十八名 上海に残留す</p> <p>軍属及其の家族と雖子女は單隊と同行し得ざるに依り星洲崎の碼頭託を星洲託の家族と共に上海日僑会に編入せしむ</p> <p>旅団は九江時の区分に基き六月十四日及六月十七日の兩日に別れて乘船歸還す</p>
--------------------	---

ク
ト
中
支
シ
ノ
リ
レ

年月日	概	要
六一九	乘船シ同日一四、三ノ上海出発	
六二八	浦頭上陸	
六二九	復員式を施行	
	同日夜より分連帰郷す	

(1/2)

0201

独立歩兵少七旅団
 独立歩兵少二百十五大隊
 部隊略正

年月日	概	要
昭、一九、一二七	軍令陸甲少百十五号により編成下令	
一九、一二七	編成業務に着手	
一九、一三一	中華民国江西省九江縣九江に於て編成完結	
大隊長陸軍中佐米山靖正以下將校三十五名 准士官七名 下士官八一名 兵一二九七名		
一九、三、三一	中華民国江西省南昌縣南昌に移駐	
一九、五、一五	同日より南昌地区周辺の警備	
一九、八、二三	歩兵少六十九連隊補充隊より下士官十五名補充	
二〇、一、二五	歩兵少六十九連隊補充隊より將校以下六十六名補充	
二〇、二、二三	歩兵少六十九連隊より昭和十九年徵集兵團役兵五百五十名入隊	
二〇、三、二八	大隊長陸軍中佐米山靖正陸軍歩兵学校に転任	
二〇、六、九	本上兵補充員として將校以下十四名入隊	
二〇、八、一四	待機諸將校	

年月日	概
將、二〇、八一九 五二〇、八、一九 二〇、九、二四	復員下令 停戦業務
二〇、一〇、一八 二一、五、三〇	江西省浙東縣吉山島に移動復員業務 九江出發
二一、六、三 二一、六、一八	上海發 上海港出帆
二一、六、三一	浦賀に到着、同地に於て防疫の結果反症患者一名発生し反るを以て府内隔離とせる
二一、七、二 二一、七、一三 二一、七、一四	浦賀に上陸 所持せる遺物長谷大尉以下四十名は浦賀馬場渡瀬所に移管 復員式 徐隊召集解除 残務整理者 西田大尉以下四名は福岡縣二日市復員本部に出発 各隊各々班 行別死任者の引平により夫々歸郷す

(170)

0203